

日本語のナラティブにおける名詞述部の研究
THE STUDY OF NOMINAL PREDICATES IN JAPANESE LANGUAGE

井ノ口悦子, 金沢工業大学
Etsuko Inoguchi, Kanazawa Institute of Technology

1. はじめに

本稿では日本語の書き言葉・話し言葉のナラティブにおける名詞述部の使用頻度を比較し、それぞれがどのような場面で使用されているかを調査した。ナラティブとは特定の時間軸に沿った出来事の描写である。現実を語り手の観点から投影したもので、大人が子供の社会性を育てるために使う役割もある (Ochs, 1974)。書き言葉のナラティブは関係代名詞や補文のような複雑な文構造が特徴的である。先行研究によると、日本語の書き言葉のナラティブにおいては、述部における品詞の種類別出現率は、ジャンルや書き手の年齢によって異なる。樺島 (1979) によると、新聞の見出しでは一文中における名詞の比率が高くなるが、小説では低くなる。一文中に名詞が多用されることでより簡潔に、短い文で情報を詰め込むことができる。Ravid and Cahana-Amtay (2004) のヘブライ語の作文の研究では高校生は小・中学生より名詞述部をより使うという結果が得られ、年長になるにつれ名詞述部を使って出来事をより客観的に描写し、情報を簡潔にまとめるようになると述べている。

Maynard (1996) では、日本語の小説とその英語訳を比べて、日本語のほうが英語訳よりも名詞述部が多く、それは日本語の文構造や、「のだ」、「わけだ」のような動詞を名詞化するモーダル的な形式名詞の存在に依るとしている。名詞述部を用いて出来事を「もの」として扱うことで、より客観的に描写しているとしている。日本語学習者にとって書き言葉・話し言葉の使い分けは難しい (山本・大西 2003) とされているが、文末に用いられる品詞に違いはあるのであろうか。当研究では書き言葉・話し言葉のナラティブにおける名詞述部の頻度と使われ方を比較調査する。述部がナラティブのプロットを進める役割をしているため、一文中に出現する品詞の数ではなく、述部に現れる品詞を調査対象とした。

2. データ

書き言葉のデータは「キッチン」、「世界の中心で、愛を叫ぶ (以降「世界」)」、「電車男」という3種類の小説のはじめの100文を用いた。いずれも10代~20代の恋愛を扱ったベストセラーであり、漫画、テレビドラマ、映画などになった、いわゆるクロスメディアマーケティングによって大きなブームを引き起こした作品である。「キッチン」の筆者は女性、「世界」は男性であるが、「電車男」の筆者は性別も身元も不詳である。「電車男」は2004年にインターネットの掲示板にある人物が載せた相談から始まり、それについて相談者と他の身元不詳の参加者が掲示板に書き込んだやりとりが小説化されたものであるが、本研究では「電車男」と呼ばれる相談者が掲示板上で自己の体験を述べているナラティブを使用した。書き言葉ではあるが、非常にくだけた、話し言葉に近い文体である。

データとして、主文 100 文の述部を対象とし、関係代名詞や補文に現れる述部、「て形」は省いた。また、「んです」、「ためです」、「だけです」などモーダルの形式名詞や副詞で終わるものは調査の対象外とした。

話し言葉のデータは Oral Proficiency Test (以下 OPI) のデータを使っている。OPI テスターの資格を有したテスターが日本語母語話者に日本語でインタビューを行っている会話における、インタビューされている方(被験者)によるナラティブを用いた。OPI は会話能力を図るテストで、テスターが質問者として会話の流れやトピックをコントロールする。OPI ではインタビューされる側は日本語学習者が多いが、本研究で使ったデータではテスターも被験者も日本語母語話者である。対一の会話が三種類(女性 2 人、男性 1 人)あり、テスターは 3 回とも同一人物である。書き言葉と異なり、対一の直接対話では、ターン交替はこのような「から」や「けど」のような副詞節で終わることが多いため、それを「文の区切り」とみなし、「けど」や「から」で終わる文の述部も対象とした。

「キッチン」と「世界」は常体で書かれており、「電車男」は主に常体であるが時に敬体も混在する。OPI のインタビューデータはテスターが被験者より年上で初対面であるため、被験者はみな敬体を使用している。

3. 結果

表 1 では書き言葉、表 2 では話し言葉の述部に出現する品詞を種類別に分け、その頻度と全体に占める割合を示す。「その他」は副詞で終わる文や「助詞+です」のような文である。書き言葉・話し言葉両方において動詞が一番多く(書き言葉: 71.3%, 話し言葉: 67.8%)、名詞述部は 2 番目に多くなっている(書き言葉: 15.3%, 話し言葉: 17.7%)。どちらのスタイルも品詞の種類と頻度が同じ傾向にあることがわかる。

書き言葉も話し言葉も名詞述部の種類と頻度は似た傾向であるが、使用方法が異なることがわかった。書き言葉では場面の転換部で使われることが多く(50 例中 13 例)、そのうち 5 例は、分裂文、いわゆる Cleft sentence において使われていた。

表 1 書き言葉における名詞述部の使用頻度

	名詞	動詞	形容詞	その他	文の総数
キッチン	14 (14%)	76 (76%)	5 (5%)	5 (5%)	100 (5%)
世界の中心 で、愛を叫ぶ	20 (20%)	66 (66%)	6 (6%)	8 (5%)	100 (5%)
電車男	10 (11.6%)	62 (72.1%)	0 (0%)	14 (16.3%)	86 (100%)
計	44 (15.3%)	204 (71.3%)	11 (3.8%)	27 (9.4%)	286 (100%)

表2 話し言葉における名詞述部の使用頻度

	名詞	動詞	形容詞	その他	文の総数
女性 1	15 (16.1%)	54 (58.1%)	12 (12.9%)	12 (12.9%)	93 (100%)
女性 2	15 (17.4%)	70 (81.4%)	1 (1.2%)	10 (11.6%)	86 (100%)
男性 1	20 (19.2%)	68 (65.4%)	9 (8.7%)	7 (6.7%)	104 (100%)
計	50 (17.7%)	192 (67.8%)	22 (7.8%)	29 (10.2%)	283 (100%)

(1) 翌日は、元の家を正式に引き払う日だった。 (キッチン)

(2) 駐車場の向こうは雑木林だった。 (世界)

(3) おじゃまします、と上がったそこは、実に妙な部屋だった。 (キッチン)

(1) は時間の転換を示す場面である。(2)、(3) は分裂文だが、(2) では駐車場に読者の注意を向けたあと、雑木林に視線を移させることで場面が転換する。

(3) も同じように、ある地点から別の地点へ移ったことを映画の登場人物と同じような目線で見ることができる。分裂文は主語でその時点での場面から、述部に短い名詞述部を使って時間や場所を指定してナラティブの場面が転換することを示す、カメラワークの働きをする。話し言葉のナラティブでは分裂文は2件見られた。

(4) そういうことをしてあげるのはよっぽど親しい人なんで。 (女性 1)

(4) では主語の「そういうこと」は前述の出来事を示す。

さらに書き言葉では人物や場所などに関する情報を補足するのに名詞述部が使われていた。

(5) 彼は、祖母の行きつけの花屋でバイトをしていた人だった。 (キッチン)

(6) そして夢を見た。まだ元気だったころのアキの夢だ。 (世界)

「電車男」は小説化されたナラティブであっても、「キッチン」、「世界」とはかなり名詞述部の使い方にも違いがあった。掲示板の参加者のやりとりであるため話し言葉のカジュアルな会話に非常に似ているが、電報のメッセージや新聞の見出しのように情報を簡潔にまとめるために名詞述部が使われていた。

(7) これ、事件にします？と女性陣に問うと、「いや、いいです」との答え。
(電車男)

(8) それでもじいさんに聞こえていなかったらしく、反応なし。(電車男)

(7) では接続詞「と」を使って主人公「電車男」とほかの登場人物のやりとりを時間軸に沿って並べているが、『「いや、いいです」と答えた』ではなく「との答え」と名詞述部を使うことで、動詞を使って出来事を単にならべるのではなく、他者の行為を自分ではコントロールできない「もの」として扱っている。

「反応なし」などの短い述部は、インターネットでの書き込みにおけるタイピングの面倒を減らし、情報をコンパクトにまとめることで、相手（掲示板の読み手や参加者）にとって読みやすく、すぐに読みきれるようになっている。また、掲示板でのナラティブは書き言葉ながら読み手を強く意識しているため、短い名詞述部は短い文のやりとりが起きる会話と同じようなリズムを生んでいる。

話し言葉のナラティブでは、名詞述部 50 件のうち 15 件は「～と思う」と共起していた。

(9) 平たく言っちゃうと言語学、の、延長みたいなものだと思うんですけど。
(男性)

また、「と思う」に「けど」で発言を和らげるために「けど」をつけているものもあった (7 件)。

(10) 自分の専攻分野はま、あの、一応国際コミュニケーションなんですけど
と、でもそれとは全く関係のないような、写真とか、あと、／うーん、絵とか、あとドイツ語とかそういうのばかり取ってて、実際、こちらの学校に移った単位っていうのも、あの、3 単位か 4 単位ぐらいで、ええ少なかったんですけど。(男性)

(11) レベルはまあ、難しすぎず簡単すぎず位のレベルだと思うんですけど。
(女性 2)

(10) では「けど」で終わる文が次に続く長い文の前置きとなる。「(主語)は(名詞)だ」という文は動詞で終わる文と比べて物事を断定的で一般的なものとして描写する (Maynard, 1996) が、話し言葉では「けど」や「と思う」を使うことで断定的な物言いを和らげ個人の感情や推測を交えた、主観的なニュアンスを与えている。

4. まとめと日本語教育への示唆

書き言葉と話し言葉の述部では、どちらも共通して動詞が一番頻度が高く、次に名詞が使われていることがわかった。日本語学習者にナラティブの構造を教えるときには、動詞を適切な接続詞でつなげていくことをまず指導し、ナラティブの場面が変わるときに分裂文を用いるなどのストラテジーを教えるといいと思われる。また、話し言葉でも書き言葉でも、イベントを順序だてて述べ、時に「と思う」など主観的な表現を用いて個人の感情や視点を導入することに焦点を置け

ば、ただの日記のような、出来事の羅列ではない深みのあるナラティブを作成することができるだろう。自然な会話のやりとりは書き言葉に比べて、途中で発話が途切れていたり省略が多い (Maynard, 1989; 佐久間ら, 1997)。Matsumoto

(2003) は、ナラティブではない会話のやりとりでは出来事をこと細かく述べるのではなく、ある物事や出来事に対する自分の主観的な考えを述べるのが中心であると述べている。今回調査した OPI のデータの被験者は、親しい人とのカジュアルな会話と違い、出来事を順序立てて述べることに焦点を当てている。日本語学習者にはナラティブを述べる時と、話者間で質問したり意見を交換したりする会話には違いがあり、ナラティブでは、出来事を叙述することと、「んです」や「と思う」「けど」のような文末表現を用いて自分の考えや立場を示すことをバランスよく混ぜることが大切だと指導すればいいであろう。

参考文献

- 片山恭一 (2001) 『世界の中心で、愛をさけぶ』小学館
 樺島忠雄 (1990) 『日本語のスタイルブック』大修館書店
 佐久間まゆみ・杉戸清樹・半澤幹一 (1997) 『文章・談話のしくみ』おうふう
 中野独人 (2004) 『電車男』新潮社
 山本雅子、大西大吾 (2003) 「話し言葉と書き言葉の相互関係」『言語と文化』
 8. pp. 73-90 愛知大学語学教育研究室
 吉本ばなな (1988) 『キッチン』新潮社
 Matsumoto, Kazuko. (2003). *Intonation units in Japanese conversation*.
 Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.
 Maynard, Senko K. (1989). *Japanese Conversation*. Norwood: Ablex
 Maynard, Senko K. (1996). Contrastive rhetoric: A case of nominalization in Japanese
 and English discourse. *Language Sciences*, 18, 3-4: 933-946.
 Ochs, Elinor, (1997). Narrative. In Teun A. van Dijk (Ed.), *Discourse Studies : a
 multidisciplinary introduction*. London : Sage Publications, 1: 185-207.
 Ravid, Dorit and Dalia Cahana-Amitay. (2004). Verbal and nominal expressions in
 narrating conflict situations in Hebrew. *Journal of Pragmatics* 37: 157-183.